

パリには、パリ大学の
キャリアー教授が自ら率い
世界一と自負する救急医
療体制SAMUがある。

救急統制台に複数の医
師が常駐して、救急要請
の電話を直接受け、患者
の容体によっては救急車
にそのまま乗り込みドク
ターカーとして現場に急
行、処置をしながら搬送
する。残った医師が心筋
梗塞や脳梗塞に対応でき
る病院の医師やベッドの
空き状況をチェックし、
重症度に応じた病院に運
ぶという究極のシステム
だ。キャリアー教授によれ
ば、ニューヨークの米国
型ERと心筋梗塞患者の
搬送時間を比較し、世界
一の救急システムである
ことを証明したそうだ。

もう一つ、フランスに
は在宅入院システムとい
う日本にも役立ちそうな
制度がある。小さなオフ
イスに退官後の医師や看
護師が駐在し、訪問看護
師やヘルパーを派遣して
在宅医療や訪問看護をコ
ントロールするものだ。
糖尿病、がんの化学療法、
経管栄養、感染症など、
かなり重症度の高い症例
にも対応している。

フランスの医療

週1回かかりつけ医の
往診があり、看護師は必
要に応じて1日3回毎日
訪問することもあれば、
2日に1回で看護助手の
こともある。急変時はS
AMUやかかりつけ医に
連絡するというシステム
だ。質と効率を担保する
ため、在院日数が短くな
れば診療単価が上がるそ
うだ。フランスは、やは
り一味も二味も違う。

光生病院理事長
兼院長

佐能 量雄

一日一題

昨年、原発のコントロ
ールでは世界一であるこ
とを宣言し、まるでEU
(欧州連合)中に電気を
輸出する勢いであった。
子育てでも減税どころか
多額の子育て手当を支給
して、出生率を上げ人口
増加に成功している。世
界一のワインコレクション
ンや高級ファッションだ
けでなく、見事に世界に
誇るフランス文化を繁栄
させている。

ワインやフランス料理
を楽しむ文化には、酒や
焼酎をたしなみ、美しく
飾られた日本料理を味わ
う日本人と共通する感性
も多い。日本はぜひとも、
フランスから多くを学ん
でほしいところである。

2012.3.15